

飯田工業高校後利用プロジェクト

検討状況

この報告は、飯田工業高校の後利用に関する学輪IIDAのプロジェクト等における議論の経過や、調査内容を紹介するものです。

飯田工業高校後利用については、様々な視点からの検討と議論が必要だと思いますが、今後の検討材料となれば幸いです。

小畑力人(追手門学院大学)

1

プロジェクトの目的

平成25年4月に飯田新校に統合される「飯田工業高校の後利用」について、「**教育的施設**」として活用することの可能性について様々な視点から検証してみる。

検証の考え方

大学等の現状等を踏まえつつ、以下の2つの視点で検討を進めていく

教育的施設の可能性について

現在の取組からの積み上げ

南信州・飯田フィールドスタディなど

リニア時代を意識した「大学的機能」の視点

大学院大学・教育関係共同利用拠点制度 の活用など

と

2つの視点で検討する

これまでの学輪IIDAプロジェクト等での考察

視点 現在の取組からの積み上げ

飯田の資源やセールスポイントを活かすことが重要ではないか

例えば

- 南信州・飯田フィールドスタディ等で多くの大学(研究者・学生)が飯田を学びや実践の場として訪れている
- 学輪IIDAの取組やネットワーク
 - ・ 共通カリキュラムプロジェクトでは、飯田で何を学ぶのか(学べるのか)、飯田の価値を共有化するモデルカリキュラムの作成や実践に取り組んでいる
 - ・ 学輪IIDAの教員間のネットワークの活用

飯田に来れば、地域づくりを学ぶことができる
飯田に来れば、様々な大学・研究者とつながりが持てる など

これは大きな魅力であり重要なポイントと考える

3

視点 現在の取組からの積み上げ

教育的施設としての可能性について

○ 理念・コンセプトが重要

「飯田で何を学ぶのか・どのような人材を育成するのか」といった

「理念やコンセプト」について、更なる検討が必要ではないか

・ 飯田で何を学ぶのか

→ 例えば「伝統工芸の技術継承や創造」「食文化」

・ どのような人材を育成するのか

→ 例えば、これからの飯田、これからの日本に必要な人材

そのうえで、**理念・コンセプトを実現するために必要な教育**(教育目的の達成に必要なカリキュラムの構築)や、**必要な教育を実施するために必要な施設**(施設の有効活用) について検討してみる

例えば、学輪IIDA共通カリキュラム構築プロジェクトでは、モデルカリキュラムの作成や実践を、地域とともに実施している

H24年度は、この地域の「ソーシャル・キャピタル」

H25年度:この地域の「環境」「伝統産業」に着目した取組を展開

4

これまでの学輪IIDAプロジェクト等での考察

リニア時代を意識した「大学的機能」

中央教育審議会答申（平成24年8月28日）

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて

（求められる学士課程教育の質的転換 からの抜粋）

- 従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく**能動的学修(アクティブ・ラーニング)**への転換が必要
- 従来の教育とは質の異なるこのような学修のためには、インターンシップやサービス・ラーニング、留学体験といった**教室外学修プログラム**等の提供が必要

南信州・飯田フィールドスタディや、飯田における様々な大学の実践的な学習活動など、飯田が有している「学びの場(学びの宝庫)」としての魅力や可能性は、求められる大学教育のモデル創造の場になり得るのではないかと

5

リニア時代を意識した「大学的機能」

大学院大学の設置可能性

飯田の資源やセールスポイントを活かし、学輪IIDAのネットワークを活用することで、**大学院大学の設置可能性はあるのではないかと**

【大学院修士課程の修了要件】

標準修業年限は2年、修了に必要な単位(標準で30単位以上)を取得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験の合格が必要

例えば 飯田に大学院大学を設置した場合（2年間で30単位を想定）

30単位のうち12単位は修士論文、残りの18単位を2年間で取得するとすれば

- 修士課程1年前期で3科目6単位（半年で6単位）
- 修士課程1年後期で3科目6単位（半年で6単位）
- 修士課程2年前期で3科目6単位（半年で6単位）の**計18単位**

修士論文の12単位と合わせれば修了に必要な単位数を取得

- ・1科目(2単位)は90分間の講義15コマ。これは共通カリキュラム構築プロジェクトが実施している「モデルカリキュラム」と同じ時間数
- ・1週間に90分間の講義を3コマを、前期(半年)の受講することで6単位取得

6

今年度のプロジェクトでの検討・提案

新たな視点・考え方

目指すべき地域像の実現に向けた、地域振興や人材育成の拠点

→リニア時代を見据えた目指すべき地域像の実現に向けた、地域振興や人材育成の拠点として、どのように活用するのかといった視点

目指すべき地域像の実現

例えばリニアビジョン

- 小さな世界都市
- 多機能高付加価値都市圏
- 守るべきもの・備えるべきもの
- 多様な主体の連携

地域に必要とされる人材育成

例えば

- デザイン思考ができる人材
- 地域の将来を担うことができる人材
- 飯田を起点にグローバルに活躍できる人材 など

7

地域振興や人材育成の拠点

飯田工業高校が、目指すべき地域像の実現に向けた、地域振興や人材育成の拠点として役割を担うためには、

- 1 どのような施設として活用すれば良い
- 2 そのためには、どのような機能を持てば良いのか

について、改めて考えてみる必要があるのではないか

プロジェクトとしては

- 1 どのような施設として活用すれば良いか
→ **教育・研究施設（機関）としての活用**
- 2 そのために必要とされる機能は
→ **新しい価値を創発していく機能（価値創発機能）**
新しい形の大学機能（大学機能）

を有することが必要ではないかと考える

8

教育・研究施設に求められる機能

価値創発機能

現在の価値を高める・新しい価値観を生み出す機能

(具体的には)

- **様々な人材が集い** (交流や連携を求めて大学、研究者市民、企業等が集う)
- **様々な形で相互につながり** (集まった主体が、様々な形でつながる)
- **ともに学び** (学びの宝庫「飯田」で多様な主体が協働で学ぶ)
- **実践する** (多様な主体の協働による実践や挑戦)

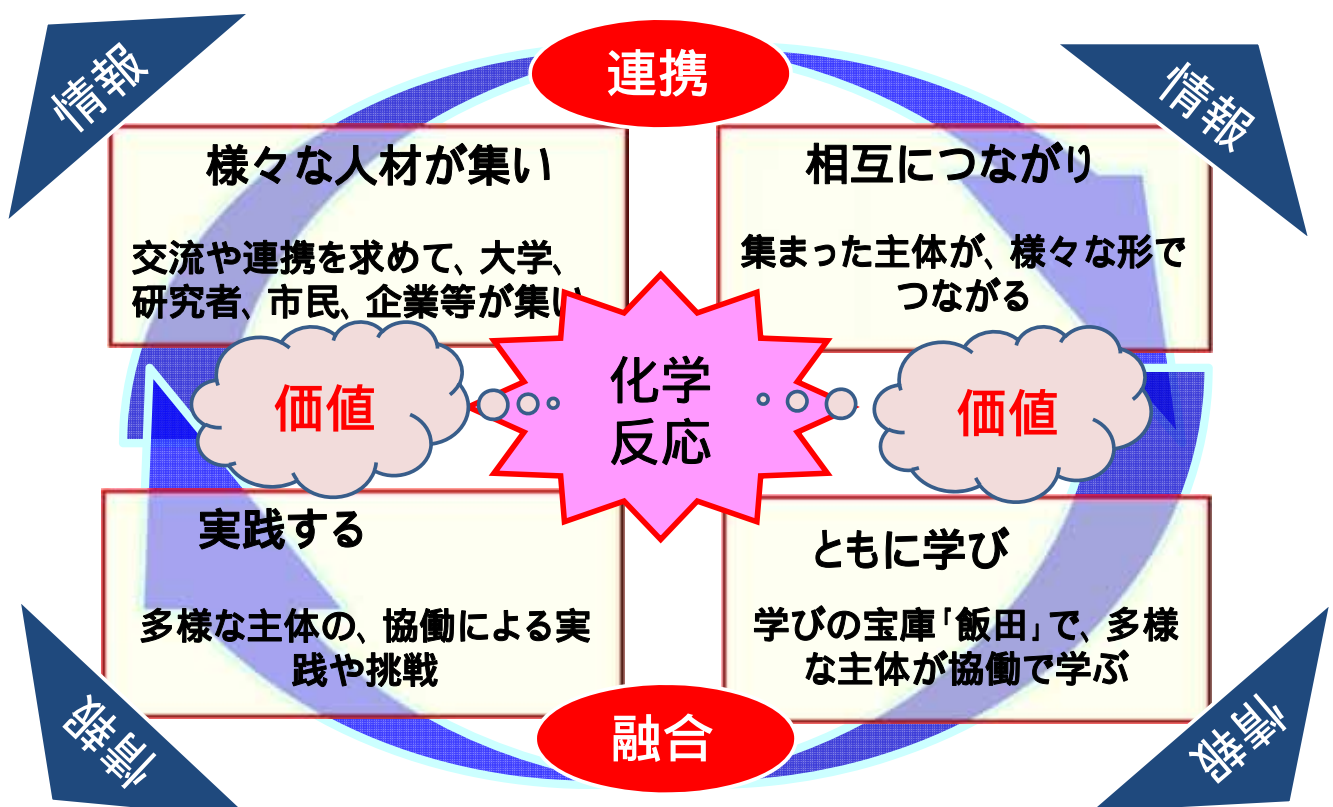
ことで

現在の価値を高め・新しい価値観が創出され、
多様なネットワークを通じて発信され、
更に発展していくことができるような機能

9

価値創発機能

現在の価値を高める・新しい価値を生み出す機能

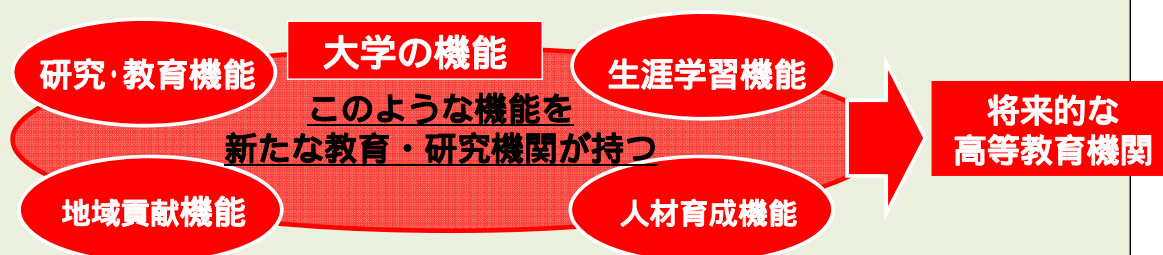


大学機能

将来的な高等教育機関の設置に向けた**新しい形の大学機能**
地域に大学が存在しなくても、大学とのネットワーク等を活用することで、大学が存在するのと同じ効果を生み出す機能

○大学の機能：平成17年の中教審「将来像答申」

世界的な研究・教育の拠点	高度専門職業人養成
幅広い専門職業人の育成	総合的教養教育
特定の専門的分野の教育・研究	地域の生涯学習機会の拠点
地域貢献機能(地域貢献・産学官連携・国際交流等)	
(各大学はこれらの機能全てではなく、1部を保有するのが通例)	



教育・研究施設としての具体的な活用案

ナレッジ・スクエアの設置

ナレッジ：知識・理解・経験・情報 **スクエア**：広場・街区

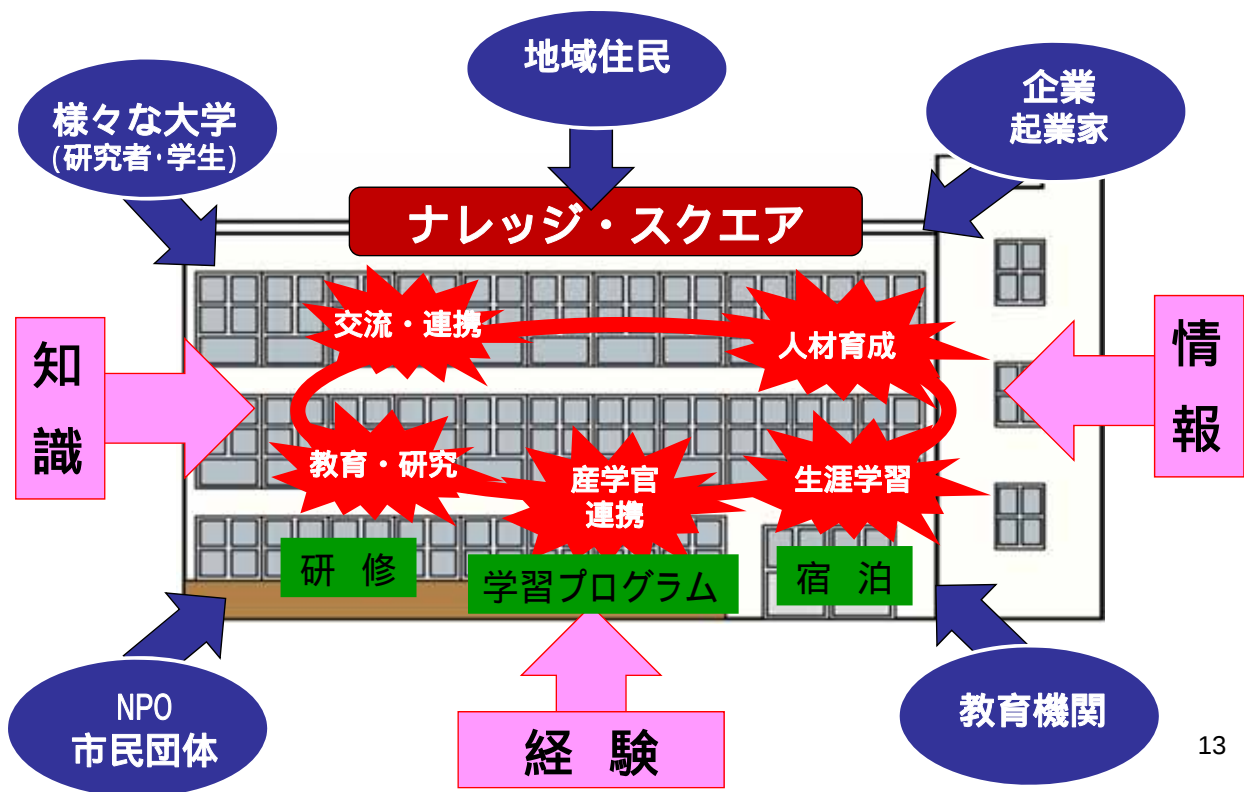
様々な人材・知識・経験・情報等が交差する広場・街区

- 例えば、多様な主体(市民・研究者・企業・団体等)が集い、交流し、共同で教育・研究等の様々取組が実践・展開され、知識・経験・情報が集積、発信されるような場所としての活用

→ **ナレッジ・スクエア**での実践活動を通じて、取組の高度化や新しい価値観が創発され、新しい形の大学機能の構築や高等教育機関設置に向けた力となる

「セミナーハウス」のイメージに近いが、単なる「貸し施設」ではなく「価値観創発」や「新しい形の大学」といった複合的に多様な機能を備えた教育・研究施設のイメージ

ナレッジ・スクエアのイメージ



ナレッジ・スクエアに求められる施設とは

(例えば)

【学習・教育施設】

- 様々な大学が共同で学習・教育する施設
- 地域（市民・団体・企業等）の学習・教育施設
- 様々な大学が地域とともに学習する施設

- 講義室
- 多目的施設
- 研修室
- 図書施設
- サテライト施設 など

【交流施設】

- 様々な大学が交流する施設
- 地域（市民・団体・企業等）同士が交流する施設
- 様々な大学が地域と交流する施設

- 交流スペース
- 交流サロン など

【研究施設】

- 様々な大学等の研究施設、共同研究施設
- 地域（市民・団体・企業等）の研究施設
- 様々な大学と地域の共同の研究施設

- 大学研究室
- 民間研究施設
- サテライト施設
- シンクタンク など

【展示施設】

- 様々な学習・教育・研究成果等の発信

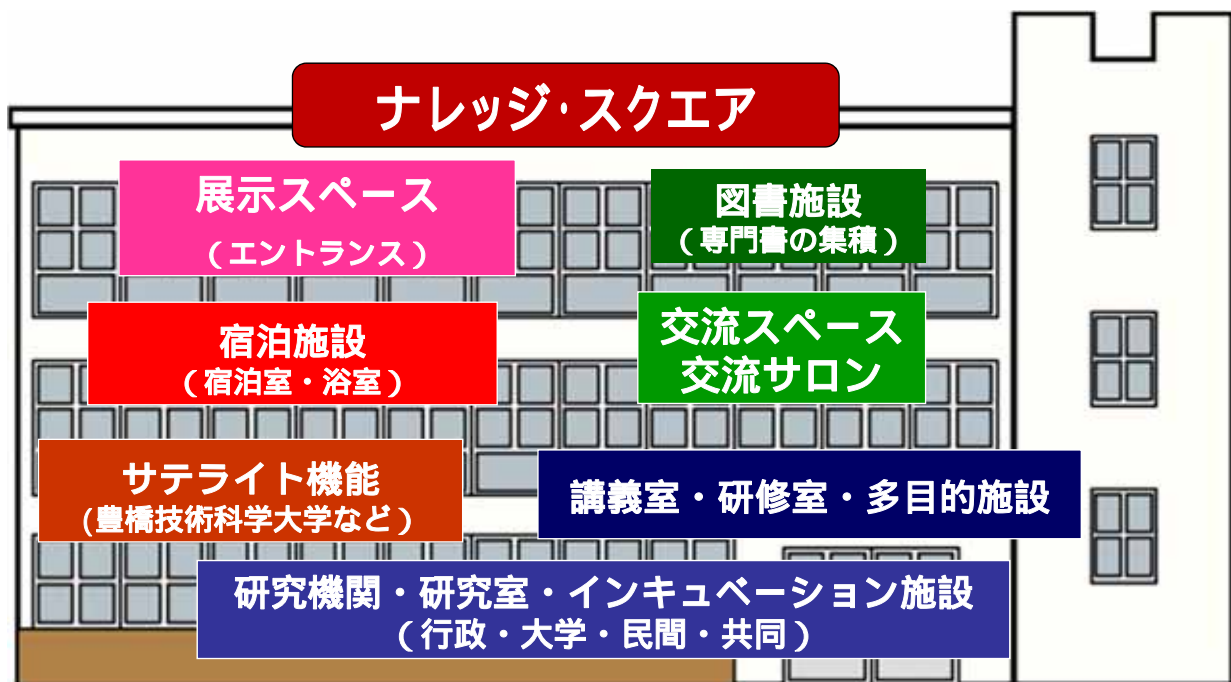
- 展示スペース

【宿泊施設】

- 大学（研究者・学生）の宿泊スペース

- 宿泊室・浴室 など

ナレッジ・スクエアの施設イメージ



15

類似する施設

○ 八王子セミナーハウス (正式名称: 財団法人セミナーハウス)

「研修宿泊 (貸館)」と「主催事業」を展開

研修・宿泊 (大学・学生のほか、社会人向け研修や宿泊 など)

主催事業 (大学生・教職員・自治体職員等を対象にした各種セミナー)
(優位性)

東京圏内にある地理的条件、教育や学習を実施するに快適な環境、
しっかりとした運営組織

ナレッジ・スクエアに求められるもの

他のセミナーハウスに無い**優位性が必要**

単純な場所貸しでは無く、**コンセプトやコンテンツが重要**

(ここに来れば誰かに会える、何かを得ることができる)

宿泊機能と学習プログラムも重要になるが、**飯田の場合は地域との関係性がポイントではないか**

16

将来的には

ナレッジ・スクエア としての活用・実践



1 高等教育機関の設置 (大学院大学)

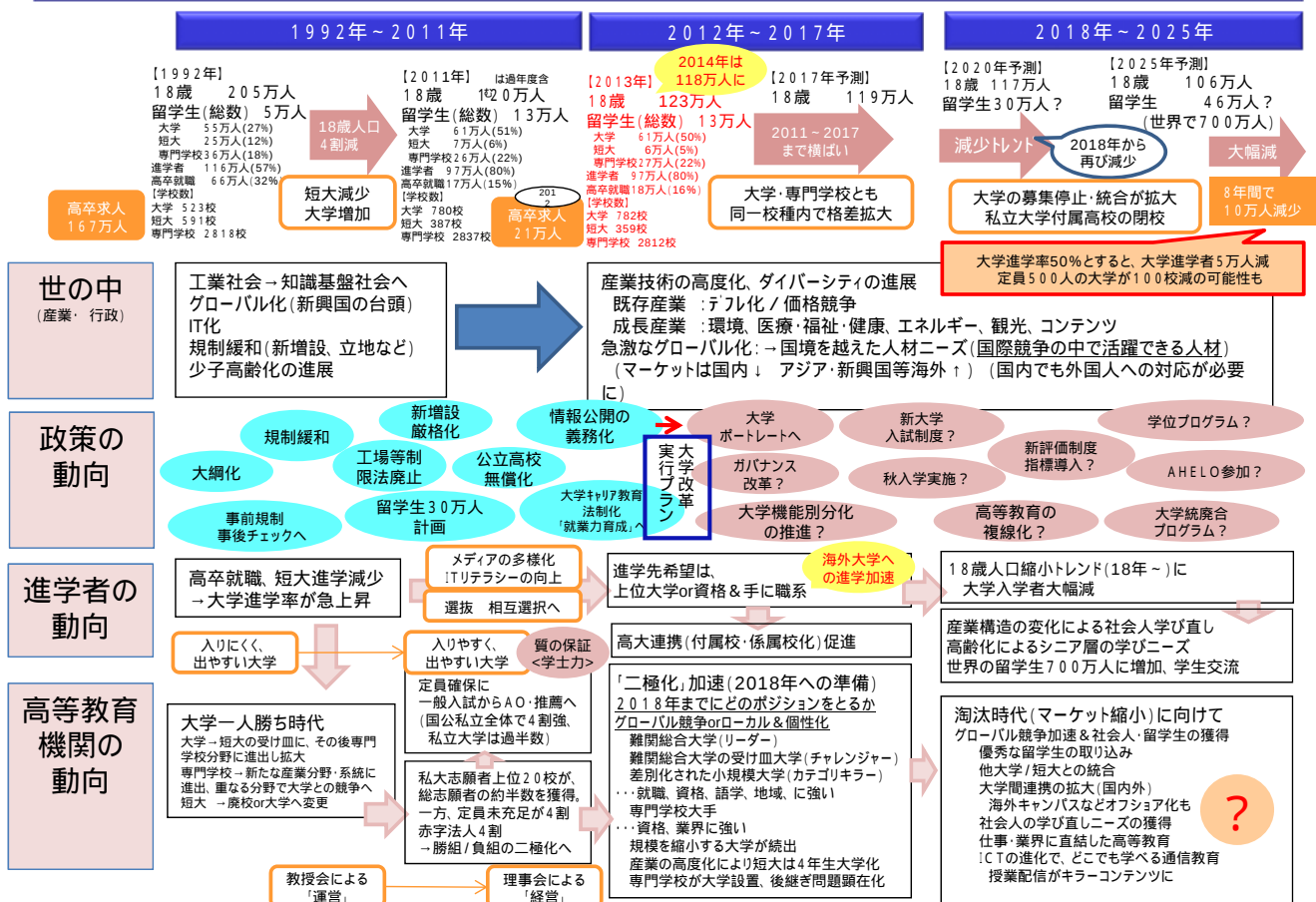
明確な理念やコンセプトを持った、
地域ならではの高等教育機関の設置

2 コンベンション施設の設置

小さな世界都市実現に向けた
国際交流の拠点

17

将来の高等教育はどうなるのか(1992年～2025年)



1 高等教育機関の設置

○ 大学院大学の設置可能性

飯田の資源やセールスポイントを活かし、学輪IDAのネットワークを活用することで、**大学院大学の設置可能性はあるのではないか**

明確な理念やコンセプトを持った、この地域ならではの大学院大学の設置

この地域の特色や強みを活かしつつ、大学間連携を図ることで、比較的小規模ながら特定の分野に特化した大学院大学

(例えば)

デザイン思考を持った人材を育成する大学院大学

グローバルな人材を育成する大学院大学

高度な専門職人材を育成する大学院大学

地域の持続可能性を追求する大学院大学

19

大学院大学の設置 (参考事例)

大学院大学の一覧

【国立大学】

- ・総合研究大学院大学
- ・北陸先端科学技術大学院大学
- ・奈良先端科学技術大学院大学
- ・政策研究大学院大学

【公立大学】

- ・産業技術大学院大学 (設置者は公立大学法人首都大学東京)
- ・情報科学芸術大学院大学(IAMAS) (設置者は岐阜県)

分野別での一例

【ビジネス・会計】

- ・事業構想大学院大学
- ・事業創造大学院大学

【科学技術】

- ・沖縄科学技術大学院大学
- ・光産業創成大学院大学

【医療】

- ・滋慶医療科学大学院大学

【教育】

- ・日本教育大学院大学

20

大学院大学の設置（参考事例）

○事業構想大学院大学

事業構想大学院大学HP等より

2014年4月に、設立された社会人向け**専門職大学院大学**。
東京都港区南青山にキャンパスがあり、**事業構想研究科**を設置。
運営は、学校法人東教育研究団。**附属機関**として、**事業構想研究所**及び出版部がある。

事業構想を、「アイデアを生み、実現可能な計画へと発展させ、計画的に新しい仕組みをつくり動かすこと」と捉え、「知識を超えるアイデアを」を教育方針に掲げ、MBA(経営管理学修士)にクリエイティブな要素を加えたMDD(**事業構想修士**)の修得を目指す**専門教育**を行っている。

主な対象院生は、企業における新規事業担当者や事業承継者、地域活性化を志す人、NPO法人の運営者、社会企業家、起業家志望者 など

入学定員:30名

学位:事業構想修士(専門職)

修業年限:2年

修了単位数:34単位以上

授業日:平日夜間並びに土曜日昼間

21

大学院大学の設置（参考事例）

○知床自然大学院大学

一般財団法人知床自然大学院大学設立財団HP等より

環境保全や野生生物の保護管理を学ぶ**専門職大学院**の設立を目指し、**民間有志による一般財団法人「知床自然大学院大学設立財団」**が2013年1月に発足。2017年度の開学を目指して、有識者による**専門委員会**を設置。具体的な構想や計画づくり、カリキュラム等の作成に取り組んでいる。また、寄付金、賛助会員の募集している。

組織: 学校法人の運営による大学院大学（2年制専門職大学院大学）

設置場所: 北海道斜里町、羅臼町及び近隣市町村を予定

教育内容: 知床をフィールドに、地域の自然環境や産業・生活に即した問題解決能力、対処技術を身につける。国際的に通用する専門知識や語学、コミュニケーション能力を養い、どこでも通用する「人間力」を持った人材を育成する。

学生像: 自然環境や野生生物に強い関心を持ち、野生生物の保全や 保護管理、生態系管理や環境保全全般に関する専門職や研究者を目指す学生及び社会人を、日本国内のみならず全世界から受け入れる。1学年20名～40名の定員。大学卒業者や社会人、留学生を受け入れ、学生や教員を併せ120名以内を想定

22

2 コンベンション施設の設置

小さな世界都市実現に向けた国際交流の拠点施設

- リニア時代を見据えた「小さな世界都市」の実現に向け、様々な人材や情報が集う、コンベンション機能を有する施設
 - 日本の真ん中緑豊かな「ニッポンの日本」南信州・飯田に、国内外から様々な人材が集い、情報が集積し、発信され、学術的な会議や国際的な会議が開催される
 - 世界的なもの、影響力が強いものを意図的に設置する圧倒的な情報量を有することで、新しい価値を生み出し、発信していく。将来的な「飯田ダボス会議」

23

コンベンション施設の設置(参考事例)

国の観光政策(MICE: マイス) (観光庁HPより)

企業等の会議、企業等の行う報奨・研修旅行、国際機関、団体、学会等が行う国際会議、展示会・見本市、イベントの頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

M : Meeting (会議・研修・セミナー)

企業や団体等の会議・研修・ミーティングなど

I : Incentive tour (報奨・研修旅行)

企業等が研修や表彰を目的に実施する旅行

C : Convention (大会・学会・国際会議)

国際団体、学会、協会等が主催する総会、学術会議等

E : Exhibition / Event (展示会・イベント)

文化・スポーツイベント 展示会や見本市など

24

MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする。観光振興のみでなく、「人が集まる」という直接的な効果や、人の集積や交流から派生する付加価値や大局的な意義についての認識を高める必要がある。

具体的には、以下に掲げる3つの主要な効果が考えられる。

1 ビジネス・イノベーションの機会の創造

MICE開催により世界から企業や学会の主要メンバーが集うことは、国の関係者と海外の関係者のネットワークを構築し、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことにつながる

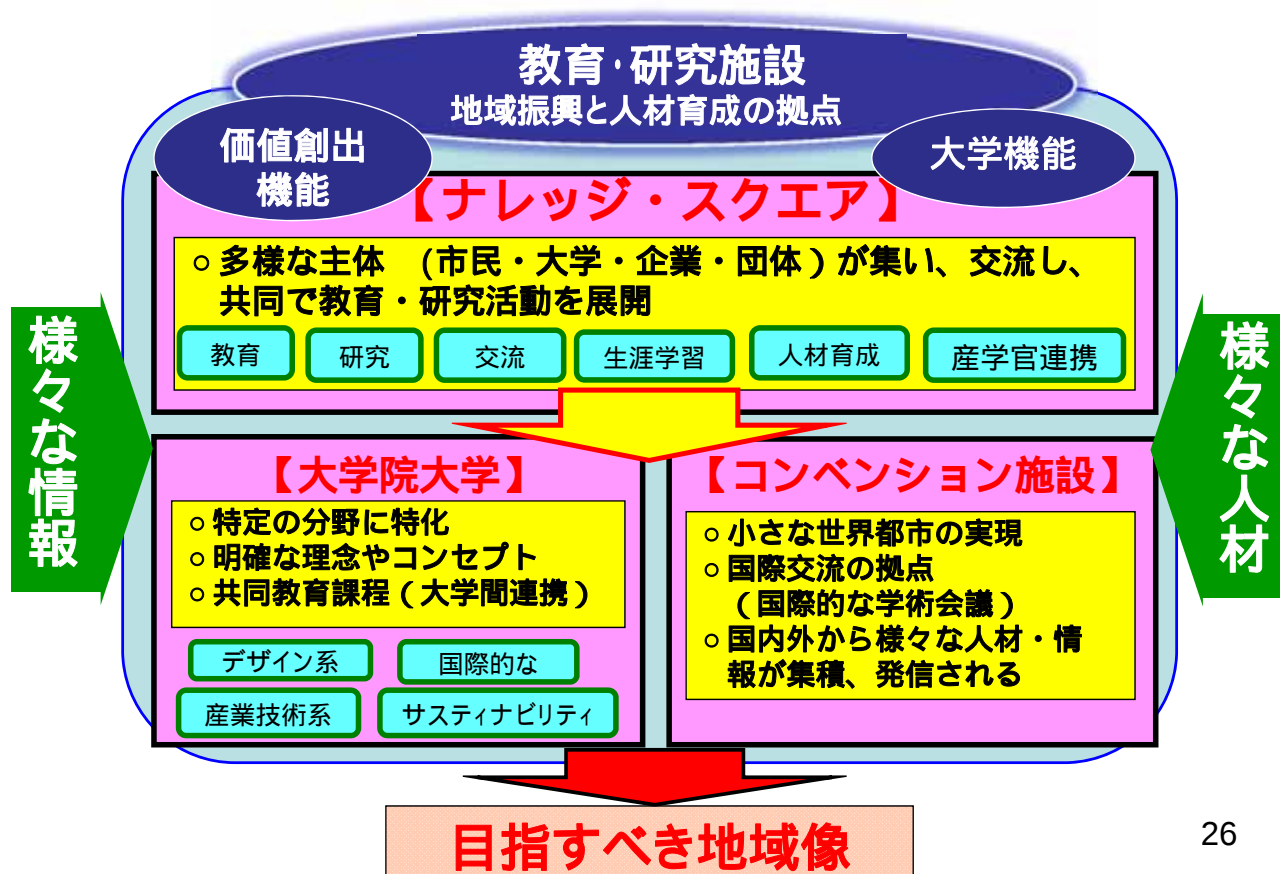
2 地域への経済効果

MICE開催を通じた主催者、参加者、出展者等の消費支出や関連の事業支出は、開催地域を中心に経済波及効果を生み出す。MICEは会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出す

3 都市の競争力向上

国際会議等の開催を通じた国際・国内相互の人や情報の流通、ネットワークの構築、集客力などはビジネスや研究環境の向上につながり、都市の競争力向上につながる

飯田工業高校の後利用のイメージ



今後の展開

飯田工業高校を、このような施設として活用するとしても、重要になるのは「**様々な人材を引き付ける魅力や磁力**」

ナレッジ・スクエアや大学院大学に行ってみたい、学んでみたい、実践してみたいといった、**人々を引き付ける磁力（コアバリュー）を明確**にし、発信していくことが重要

これは、飯田工業高校の後利用に限らず、**リニア時代を見据えた地域づくりを進めていくうえでも重要な考え方**ではないか

また、この地域の持つ「**学びの場**」としての**魅力**も、コアバリューの1つになるのではないか

今後、**飯田のコアバリューは何であるのか**を、地域の様々な主体が知恵を出し合いながら検討する必要がある

私達大学研究者も、一緒になって考えていきたいと考える

ご静聴、ありがとうございました